

図書館だより

目 次

エペソスのギリシア神殿とローマ図書館	——新海 邦治	1
展示「オーストラリアの絵本と児童文学」	——百々佑利子	2
平成17年度夏期スクーリング開館について	——中澤 啓子	5
「今、学生にすすめる本」一覧（II）	——鈴木 学	6
図書館用鍵付き傘立ての利用について		8



エペソスのギリシア神殿とローマ図書館

新海 邦治

古代都市エペソスの遺跡は、エーゲ海沿岸に位置するトルコ第三の都市イズミールから60km程南下した所にある。ギリシア人の植民都市として始まり、ローマ帝政期に入って大発展を遂げたこの町を有名にしたのは、世界の七不思議の一つに数えられるアルテミス大神殿である。この神殿は前6世紀頃の建立と推定されているが、博物学者プリニウスによれば長辺425尺(125.8m)、短辺225尺(66.6m)とされ、床面積ではアテナイのパルテノン神殿の4倍近い規模になる。神室を二重に囲んだ127本の大理石の円柱もパルテノンの倍近い60尺、約18mの高さであったという。すべての時代を通じてギリシア世界で最大の神殿だったのである。だが前356年にこの神殿は焼け落ちている。ヘロストラトスという男が自分の名を歴史に留めたいという、それだけの目的で放火したためと言われる。神殿の主アルテミス女神がその火を防げなかったのは、女神がアレクサンドロスの誕生に立ち会うために不在だったからだと古人は述べた。前356年は、後の大王アレクサンドロスの生まれた年であった。後年、アジア遠征の途次エペソスに立ち寄った大王が再建を申し出た時、市民は辞退して自分たちの力で再建を果たしたことを地理学者ストラボンは伝えている。

町は神殿よりも海寄りの場所に開けた。帝政期に入ると港から延びる大通りは大理石で舗装され、大規模な体育場や劇場、柱廊に囲まれたアゴラなどが整備された。そのローマ都市に135年頃一つの華麗な図書館が出現する。アゴラの脇に今も遺跡が残るこの図書館は、ローマの執政官を務めたティベリウス・ユリウス・アクリラが、かつてアジアの属州で総督の任にあった父ケルススの記念に私財を投じて建設し、エペソス市に寄贈したものだった。総大理石造りのファサードは装飾彫刻を施され、多くの円柱と彫像で飾られた二層構造を持っていた。内部は正面奥と左右の壁面に三層を成して壁龕が連なり、遺跡調査の結果ではその数三十と見積もられている。書物は壁龕の中に設置された書架に納められた。収蔵能力約3千巻というのが考古学者の推定である。アクリラはこの図書館の維持と書物購入のための費用として2万5千デナリウスを遺したと碑文は伝えている。

しかしこの図書館はその後200年程の間に焼失し、大神殿もまたキリスト教世界の中で生き延びることはできなかった。歴史の中にすべては埋れた。エペソスは万物流転説で知られる哲学者ヘラクレitusの町でもある。自らの書物をアルテミス神殿に奉納し、「博識は知性を持つことを教えはしない」と語った彼であれば、ローマ人の華麗な図書館は無用の長物と見たかもしれないのだが。

(図書館長・文化学科教授)

展示「オーストラリアの絵本と児童文学」

百々 佑利子

目白の図書館玄関ホールにおいて、2005年8月8日（月）より2006年2月10日（金）まで、展示「オーストラリアの絵本と児童文学」を行っています。

シドニー・オリンピック前後から、安全とダイナミックな自然という魅力が認められ、南半球に位置し日本との時差が一時間のオーストラリアは、急速に日本人が好む観光地になったようです。英連邦の一員であるところから、語学研修に行く高校生や留学をする大学生も増えました。大らかで飾らない国民性は、訪れる人々を温かく迎えてくれます。オーストラリアは、小さいながらひとつの大陸を丸ごと占めている国です。面積は770万平方キロメートル弱あり、人口は2千万弱です。日本の面積40万平方キロメートルと1億を超える人口に比べると如何に広大な国か、そして如何に人がまばらか、あるいは如何に雄大な自然をかかえているかがこの比較からも分かるでしょう。

オーストラリアの大地に古くから生きてきたもの、それは有袋類の動物と500種類ものユーカリ樹です。カンガルーやコアラがお腹の袋で赤ん坊を育てるのはよく知られています。他にも、ほ乳類なのに卵を生むカモノハシなどめずらしい動物がいます。次に国民ですが、まず約6万年から4万年位前に赤道のあたりの島から渡ってきたといわれる先住民アボリジナルがいます。キャプテン・クックの渡来時には30万人程が広い大陸に点在して住んでいたと推測されていますが、今では20万人を切っているともいわれます。国民の多くが18世紀後半から入植を始めたイギリスや東欧そしてアジア系の人々です。この構成からも分かるように、建国220年近いオーストラリアは多民族多文化主義の国です。それは児童文学にも影響を与え、どこの文化圏にも見られないような個性的な絵本や物語が数々生み出されてきました。

今でも読みつがれている古典の『まほうのブディング』(N.リンゼイ, 1918) や『プリンキー・ビルのぼうけん』シリーズ (D.ウォール, 1937?) はユーカリ樹やコアラなど、オーストラリアを彩る固有の動植物を素材としています。物語の展開や魔法の質は、イギリスのファンタジー文学とそれほど変わっていませんが、オーストラリアで生まれて育った子ども達が帰属感を培うに十分な選択でした。真にオーストラリアの絵本といえるものは、ディック・ラフジーの『ジャイアント・デビル・ディング』(1973) 他の絵本です。イギリス的な名前ですが、本名はアボリジナルのことばで「荒い海、ラフ・シー」という意味をもっています。様々な経緯があって彼は伝統的な樹皮画を世に出すようになり、絵本も製作しました。テクストは部族が口伝で語りついできた話です。迫力のある大地人や動物や精霊達が、太古のオーストラリアの景観を背景に活写されています。展示室にあるブーメランやディジリドュ（長い縦笛）は新しいのですが、こういう文化を伝えてきた証にとご覧ください。

さて長編児童文学に目を転じますと、20世紀半ばからは、大陸の風土や新世界での生き方を強く意識し、それでいて世界の読者をもひきつける大作が次々と出版されました。書き手にはI.サウスオール、H.プリンズミード、P.ライトソン等がいます。サウスオールは、『燃えるアッシュロード』(1965) を含む3部作で、ブッシュファイア等生命を脅かされることもある荒々しい大陸特有の危機的状況からの脱出ドラマを書きました。プリンズミードの『青さぎ牧場』(1964) は、親や社会や人種の問題といった成長途上にある少年少女の前に立ちはだかる壁を扱い、心の旅路について描きました。ライトソンは作品ごとにテーマを変える作家ですが、どの作品でも「深層にある単純な愛」を忘れませ



展示中央はディジリドュ（縦笛）

ん。『ぼくはレース場の持主だ！』(1968) は、精神遅滞の少年をめぐる物語で、その卓越した展開で読者を感動させました。開拓時代に養われたオーストラリアの人々の思いやりや連帯感がじみ出ています。

やがてライトソンは、この個性豊かな大地が育んできた精霊達に声を与えるようになりました。傑作といわれる『星に叫ぶ岩ナルガン』(1973) や『ミセス・タッカーと小人ニムビン』(1983) では、北半球の人々が想像もできなかったような、岩や水や山地の精霊が人間の暮らしのなかに登場します。あるいは開発をやめない人間が、精霊の住まいである奥地に侵入したともいえるでしょう。人間は不思議がったり闘おうとしたりしますが、それは所詮勝ち目のない努力なのです。精霊は何しろ何万年もこの大地のあるじだったのですから。大陸固有の動物達をぞんぶんに活躍させるファンタジー長編文学『ムーン・ダーク』(1987) はとくにアメリカの児童文学界でその詩情性を高く評価されました。ライトソンの文学は、アボリジナルの「ドリームタイム」の神話など口説文芸をもとにしています。ライトソンによれば、アボリジナルは「大地をうやまう」人々であり、大地の愛につつまれて生かされていることを実感する希有な時間をもっていたといいます。おとな向ですが、アボリジナルの血をひく画家のサリー・モーガンは、『マイ・プレイス』(1990) のなかで、「大地はあなたのものではない。あなたが大地のものなのだ」というアボリジナルの伝統的な共生の哲学を披露しています。アメリカ生まれでオーストラリア国籍、しかも日本で教鞭をとる戯曲家・演出家のロジャー・パルバースは、戯曲『ドリームタイム』(1984) のなかで子ども達に「久しく忘れていた幾多のことを思い出さなければならない」と語りかけます。このようなオーストラリア大陸から発信される児童文学を通じての「大地と人間の生き方」の議論は、地球的規模の共感を得つつあります。

現在は惑い悩む家族などこれまで地球規模の共感を呼ぶ作品の書き手がぞくぞくとあらわれています。E.ロッダ、J.マーズデン、L.グリーソン、G.ルビンシュタインほかで、人口が少ない割に出版活動が盛んであるのは、英語圏全体を読者層の視野に入れることができるからです。オーストラリアの児童文学の未来は明るく、私たち日本の読者にこれからも貴重な読書体験をさせてくれることでしょう。

(児童学科教授)

<展示図書一覧>

No.	ジャンル名またはタイトル	著者	出版社	出版年
★子どもの本（絵本）★ 10冊				
1	Australian Children's Illustrators 他	Text by Walter McVitty	The Macmillan Company of Australia Pty Ltd	1987
★オーストラリアの児童文学の研究書★ 4冊				
11	Literature for Children and Young Adults about Oceania 他	Mary C.Austin and Esther C.Jenkins	Greenwood Press	1996
★アボリジニについて★ 18冊				
15	The First Australians 他	Maureen Simpson	The Jacaranda Press	1990
★子ども向けの本★ 17冊				
33	The muddle-headed wombat 他	Ruth Park Illustrated by Noela Young	Educational Press	1962
★ジーニー・ベイカー作★ 2冊				
50	Window	Jeanie Baker	Julia MacRae	1992 c1991
51	森と海のあうところ	ジーニー・ベイカー 作・絵 百々 佑利子 訳	佑学社	1994
★ジョーク集・ベストセラー小説・他★ 3冊				
52	The Penguin Book of Australian Jokes 他	Collected by Phillip Adams and Patrice N ewell	Penguin Books	1994

No.	ジャンル名またはタイトル	著者	出版社	出版年
★文学史・オーストラリア英語・歴史★ 3冊				
55	The Penguin new literary history of Australia 他	General editor: Laurie Hergenhan	Penguin Books	1988
★オーストラリアの動植物★ 8冊				
58	Key guide to Australian wildflowers 他	Planned and produced by Leonard Cronin illustrated by Ruth Berry, Roslyn Devaux, Marion Westmacott.	Reed Books	1987
★地方の景観・オーストラリア全般★ 4冊				
66	Kakadu dreaming 他	Sally Markham-David	The Jacaranda Press	1989 c1985
★オーストラリアの歴史（和書）★ 6冊				
70	キャブテン ジェイムス・クックの生涯	J.C.ビーグルホール 著 佐藤 皓三 訳	成山堂書店	1998
71	キャブテン・クックの航海	アリストア・マクリーン 著 越智 道雄 訳	早川書房	1989
72	オーストラリアの歴史	マニング・クラーク 著 竹下 美保子 訳	サイマル出版会	1978
73	オーストラリア歴史物語	ジェフリー・ブレイニー 著 加藤 めぐみ、鎌田 真弓 訳	明石書店	2000
74	ジョシュ：ライアン・クリークの三日間	アイバン・サウスオール 作 小野 章 訳	評論社	1982
75	アボリジナル	ジェフリー・ブレイニー 著 越智 道雄、高野 真知子 訳	サイマル出版会	1984
★オーストラリアの景観★ 4冊				
76	Beautiful Australia in pictures 他	Higgins Geoff	Child & Associates	1990
★現代の児童文学（和書）★ 10冊				
80	星に叫ぶ岩ナルガン	パトリシア・ライトソン 作 猪熊 葉子 訳	評論社	1982
81	話すことがたくさんあるの…	ジョン=マーズデン 作 安藤 紀子 訳 宇野 亜喜良 絵	講談社	1990
82	ブッシュ ベイビーズ	メイ・ギブス 著 伊藤 延司 訳	毎日新聞社	1993
83	ミセス・タッカーと小人ニムビン	パトリシア・ライトソン 作 百々 佑利子 訳	岩波書店	1986
84	ムーン・ダークの戦い	パトリシア・ライトソン 作 百々 佑利子 訳	岩波書店	1991
85	悪魔の犬エリンチャ：オーストラリアの昔話	百々佑利子 編訳 小沢 良吉 絵	小峰書店	1986
86	マンガニニのはてしない旅	ベス・ロバーツ 作 百々 佑利子 訳	岩波書店	1988
87	ぼくのクジラ	キャサリン・スコウルズ 作 百々 佑利子 訳 広野 多珂子 絵	文研出版	2001
88	現代オーストラリア短編小説集（上）	越智 道雄、百々 佑利子 監訳	評論社	1983
89	現代オーストラリア短編小説集（下）	越智 道雄、百々 佑利子 監訳	評論社	1983
★写真集（和書）★ 2冊				
90	オーストラリアの動物	岩合 光昭 著	朝日新聞社	1989
91	奇岩大陸	難波 毅 著	講談社	1993

* 今回の展示は、すべて百々佑利子先生個人の蔵書をお借りして91冊展示しています。

* 上記資料のほか、ディジリドュ（縦笛）、ブーメラン、デザインがブーメランの時計、クラッピングスティック（打楽器）も、百々先生よりお借りして展示しています。

* 図書館玄関ホールには、91冊の展示図書リストのパンフレットもおいていますので、ご利用ください。

平成17年度夏期スクーリング開館について

今年も8月1日（月）から8月27日（土）まで通信教育部の夏期スクーリングが行われました。今夏は例年の台風接近・上陸の心配の他、地震などもあり、長期に家を空けて夏期スクーリングに臨むスクーリング生には学習のほかにも心掛かりなことが多かった夏だったのではないでしょうか。8月16日宮城沖地震では東京は震度4で驚きましたが、図書館は授業時間中ということもあり、館内に利用者も少なく混乱もありませんでした。資料の書架からの落下なども少なく、安心しましたが、日頃のちょっとした配慮の大切さをひしひしと感じました。

今年の受講者は1,989名で、昨年より203名の減少でした。図書館の登録者数は970名で、昨年より97名減少です。開館日数は昨年同様ですが、一日平均では、昨年より入館者-39名、スクーリング生の貸出冊数は-34名となっています。このように年々、夏期スクーリングの受講者数が減るに連れて、図書館の利用者統計の数も減少していますが、その一方で土曜スクーリング受講者の図書館利用の増加を感じています。夏期スクーリングの受講者の減少は土曜スクーリングや、地方での集中授業の実施、放送大学の単位互換など通信生の学習の形が多様化しているためかと思われます。学習の多様化は図書館にも影響し、通常期のカードの遠方者の登録が増えています。図書館では、インターネットでのO P A C の公開や図書館利用のためのe-Learningなどをホームページに設けてよりよいサービスを心がけています。

今期は授業時間の中で、図書館での調べ学習が2科目行われました。通信教育・生涯学習事務部の協力を得て、担当の先生方との連絡がうまくとれ、受講者の皆さんのがんばりがうなづけられました。受講者の皆さんのがんばりがうなづけられました。受講者の皆さんのがんばりがうなづけられました。

いきたいと思います。参考係の全体としての質問数は昨年より減りましたが、それは通学生の質問が減ったためで、通信生と学外からの問い合わせは増えています。

残念なのは、例年アンケートにより研究室の夏期休暇中の開室日を確認しているのですが、開室日が少ないところがあり、夏期スクーリング生だけでなく通学生にとっても、学習に不便なことがあったことだと思います。研究室が開けば、通学生の研究室図書の利用も図書館の利用も増えるのではないかでしょうか。各研究室で諸事情があると思いますが、少なくとも週1から2日くらい開室していただければ、利用者を案内する立場としてはありがたいと思います。

(館員・閲覧係 中澤 啓子)

参考係利用状況（質問処理件数）

年度（日数）	17 (20)	16 (20)	15 (20)
一般学生・教職員	57	76	84
スクーリング生・その他	95	82	97
合 計	152	158	181
1 日平均	7.6	7.9	9.1



図書館入口での登録風景

「今、学生にすすめる本」一覧（Ⅱ）

* 推薦された先生方の所属は、2005年4月現在のものです。

推薦者 (所属学科)	タイトル 著者／訳者・編者 出版者(叢書名など)	請求記号 (所蔵)・掲載号
井出 祥子 (英文学科)	『北のことばフィールド・ノートー18の言語と文化ー』 津曲 敏郎編著 北海道大学図書刊行会	(所蔵無)・119
ソントン不破直子 (英文学科)	『谷川俊太郎詩集』 谷川 俊太郎著 思潮社	/911.56/Tan (目)※・113
三神 和子 (英文学科)	『祖母・母・娘の時代』 鹿野 政直, 堀場 清子著 岩波書店(岩波ジュニア新書)	/367.21/Kan (目)・111
山内 久明 (元英文学科)	『死者の奢り』 大江 健三郎著 文芸春秋新社	/913.6/Oe (目)・110
	『死者の奢り・飼育』 大江 健三郎著 新潮社(新潮文庫)	※・110
出済 敬子 (英文学科)	『憲法九条、いまこそ旬』 井上 ひさしほか著 岩波書店(岩波ブックレット)	/081.6/Iwa/639 (目西)・122
新見 肇子 (英文学科)	『クラーナハ〈ルター〉—イメージの模索—』 マルティン・ヴァルンケ著／岡部 由紀子訳 三元社(作品とコンテキスト)	/723.34/War (西)・117
渡邊 利雄 (元英文学科)	『アメリカ素描』 司馬 遼太郎著 読売新聞社	/915.6/Shi (目)・107
濱野 成生 (英文学科)	『絶対平和の生涯—最初の女性国会議員ジャネット・ランキンー』 H・ジョセフソン著／小林 勇訳 藤原書店	/289.3/Ran (目西)・108
マイケル・ガーデナ (元英文学科)	"Cultural nationalism in contemporary Japan: a sociological enquiry" Yoshino Kosaku著 Routledge (London; New York)	/305.80095/Y65 (目)・114
	『文化ナショナリズムの社会学—現代日本のアイデンティティの行方—』 吉野 耕作著 名古屋大学出版会 ※著者によりまとめ直したもの	/361.5/Yos (目西)・114
加藤 雅子 (英文学科)	『日本』(全9巻) フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト 随著／岩生 成一監修 雄松堂書店	/291.099/Sie (△)※・115
佐藤 達郎 (英文学科)	『コーランを読む』 井筒 俊彦著 中央公論社(井筒俊彦著作集(8))	/167.3/Izu (目西)※・116
	『饗宴』 プラトン著／久保 勉訳 岩波書店(岩波文庫)	/131.3/Pla (目西)※・116
佐藤 和哉 (英文学科)	『英文快読術』 行方 昭夫著 岩波書店(同時代ライブラリー)	/837.5/Nam (目)・120
小塩 和人 (英文学科)	『野生のうたが聞こえる』 アルド・レオポルド著	/402.953/Leo (目)・104
大場 昌子 (英文学科)	『イエロー・フェイス—ハリウッド映画にみるアジア人の肖像—』 村上 由見子著 朝日新聞社(朝日選書)	/778.253/Mur (目西)・112
永村 真 (史学科)	『兵たちの戦争—手紙・日記・体験記を読み解く—』 藤井 忠俊著 朝日新聞社(朝日選書)	/210.7/Fuj (目)・110
喜安 朗 (元史学科)	『近代欧洲経済史序説』 大塚 久雄著 岩波書店(大塚久雄著作集(第2巻))	/308/Ots/2 (目西)・106
近藤 龍哉 (史学科)	『文化大革命に到る道—思想政策と知識人群像—』 丸山 昇著 岩波書店	/222.077/Mar (目西)・117
森田 安一 (史学科)	『文明の表象英國』 近藤 和彦著 山川出版社	/233.05/Kon (目)・104
	『大聖堂』(上・中・下) ケン・フォレット著／矢野 浩三郎訳 新潮社(新潮文庫)	/933/Fol (目)・104
西山 力也 (史学科)	『若きウェルテルの悩み』 ゲーテ著／竹山 道雄訳 岩波書店(岩波文庫)	/943/Goe (目)※・107

磯前 順一 (史学科)	『親和力』 ゲーテ著／実吉 捷郎訳 岩波書店(岩波文庫)	/943/Goe (目)※・107
伊藤 寿和 (史学科)	『沈黙の世界』 マックス・ピカート著／佐野 利勝訳 みすず書房	/104/Pic (目西△)・113
	『戸田芳実の道 追悼思藻』 戸田芳実氏追悼文集編集委員会編 戸田芳実氏追悼文集刊行会	(所蔵無)・109
	『竹内理三－人と学問－』 竹内理三人と学問編集委員会編 東京堂出版	/289.1/Tak (目)・109
吉良 芳恵 (史学科)	『戦争の日本近現代史－東大式レッスン！：征韓論から太平洋戦争まで－』 加藤 陽子著 講談社(講談社現代新書)	/210.6/Kat (目)・114
村井 早苗 (史学科)	『大江戸えころじー事情』 石川 英輔著 講談社	/210.5/Ish (目)・119
高頭 麻子 (史学科)	『これからの一生涯』 エミール・アジャール著／荒木 亨訳 早川書房	(所蔵無)・112
北村 晓夫 (史学科)	『悪童日記』 アゴタ・クリストフ著 堀 茂樹訳 早川書房(ハヤカワepi文庫)	/953/Kri (△)・112
吉井 彰 (数物科学科)	『韓洪九(ハンホング)の韓国現代史：韓国とはどういう国か』 韓 洪九著 平凡社	/221.07/Han (目)・120
高橋 雅江 (数物科学科)	『新世纪デジタル講義』 立花 隆他著 新潮社	/007.3/Shi (△)・110
国府田 隆夫 (元数物科学科)	『銃・病原菌・鉄－一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎－』(上・下) ジャレド・ダイアモンド著／倉骨 彰訳 草思社	/204/Dia/I (目△)・110
	『泡のサイエンス－シャボン玉から宇宙の泡へ－』 シドニー・パーコウイツ著／はやし はじめ、はやし まさる訳 紀伊国屋書店	/431.83/Per (目)・112
	『渡辺一夫評論選：狂気について』 渡辺 一夫著 岩波書店(岩波文庫)	(所蔵無)・107
	『ちくま日本文学全集 第58 渡辺一夫』 筑摩書房	/918.6/Chi/58 (目西)・107
小鎗 香椎子 (数物科学科)	『人類知抄百家言』 中村 雄二郎著 朝日新聞社(朝日選書)	/104/Nak (目)・107
上川井 良太郎 (数物科学科)	『世界でいちばん美しい物語－宇宙・生命・人類－』 ユベール・リーヴズほか著／木村 恵一訳 筑摩書房	/467.5/Sek (目)・107
峰村 勝弘 (数物科学科)	『数学は生きている－身近に潜む数学の不思議－』 テオニ・パパス著／秋山 仁監訳, 中村 義作, 松永 清子, 小鎗 崇子訳 東海大学出版会	/410/Pap (目)・114
林 忠一郎 (数物科学科)	『ガクモンの壁』 養老 孟司著 日本経済新聞社(日経ビジネス人文庫)	/002/Yor (目)・118
永田 三郎 (物質生物科学科)	『三四郎』 夏目 漱石著 岩波書店(岩波文庫)	/913.6/Nat (目西)※・105
	『詩の読解』 鮎川 信夫, 吉本 隆明(対談) 思潮社	/911.5/Ayu (目)・105
	『モーツアルトベスト101』 石井 宏編 新書館	/762.346/Moz (目西)・105
	『論理思考力を鍛える本』 小野田 博一著 日本実業出版社	(所蔵無)・116
	『ディアアメリカ－戦場からの手紙－』 バーナード・エデルマン編／中野 理恵監訳	223.1/Dia (目)・119
	『きけわだつみのこえ－日本戦没学生の手記－』 日本戦没学生記念会編 岩波書店(岩波文庫)	/916/Kik/I (目)・119
	『スターリングラードよりの最後の手紙』 伊東 泰治編 同学社	(所蔵無)・119

関口 文彦 (物質生物科学科)	『偶然と必然－現代生物学の思想的な問いかけー』 ジャック・モノー著／渡辺 格, 村上 光彦訳 みすず書房	/460.4/Mon (目西) • 113
金子 壱子 (物質生物科学科)	『白い航跡』(上・下) 吉村 昭著 (講談社文庫)	/913.6/Yos/ (目) • 104
	『ふおん・しいほるとの娘』(上・下) 吉村 昭著 新潮社(新潮文庫)	/913.6/Yos (目) • 104
	『冬の鷹』 吉村 昭著 新潮社(新潮文庫)	/913.6/Yos (目) • 104
高橋 秦子 (物質生物科学科)	『イスラーム主義とは何か』 大塚 和夫著 岩波書店(岩波新書)	/167/Ots (目西) • 120
浅岡 守夫 (物質生物科学科)	『これはすごい！ 化学の世界記録集』 「化学」編集部編 化学同人	/430/Kor (目) • 111
	『沈黙の春』 レイチャエル・カールソン著 青木 築一訳 新潮社(新潮文庫)	/519.79/Car (目△)※ • 111
中村 輝子 (元物質生物科学科)	『沈黙の春』 レイチャエル・カールソン著 青木 築一訳 新潮社(新潮文庫)	/519.79/Car (目△)※ • 108
土屋 荘次 (元物質生物科学科)	『二重らせんの私－生命科学者の生まれるまで－』 柳澤 桂子著 早川書房	/460.4/Yan (目) • 109
	『脳を鍛える』 立花 隆著 新潮社(東大講義人間の現在 (1))	/041/Tac (目) • 109
木村 武二 (元物質生物科学科)	『生物学のすすめ』 J.メイナードスミス著／木村 武二訳 紀伊国屋書店(科学選書)	/460/May (目西△) • 115
	『ネコの毛並み－毛色多型と分布－』 野澤 謙著 裳華房(ポピュラーサイエンス)	/489.5/Noz (目) • 115
酒井 彦一 (元物質生物科学科)	『遺伝子で診断する』 中村 祐輔著 PHP研究所(PHP新書)	/491.69/Nak (目) • 106

*(所蔵)欄の表示について(2005.11.2現在の所蔵の状況です)

目：推薦図書を目白図書館で所蔵 / 西：推薦図書を西生田図書館で所蔵

△：推薦図書を図書館以外で所蔵 / ※：推薦図書が他の図書に収録

(編集：館員・閲覧係 鈴木 学)

図書館用鍵付き傘立ての利用について

図書館では利用者の方々の便宜を考えて、目白図書館・西生田図書館ともに、鍵付き傘立てを入口に設置しています。

これらの傘立てについて、鍵がないところが多くあるとのご指摘を受けて、この度その補充などの対策を検討しています。ところで鍵がない状態となる原因は、利用者の方が傘を置き忘れたまま帰られ、鍵も返却されないためです。図書館で鍵を補充することは可能ですが、補充までに一定の期間を経ないと、前の利用者が再度鍵を開けることが考えられ、即刻鍵を補充することはできません。結果として、鍵のない箇所が増えています。

利用者の皆様が要望された鍵付き傘立てを、今後も維持するために、鍵をかけた傘は、図書館退出の時には、必ず持ち帰るということを徹底するようにいたしましょう。

編集後記 「今、学生にすすめる本」一覧は、図書館だより第104号（1999年3月）より、第122号（2005年3月）のその18まで連載し、多数の先生方に推薦していただきました図書です。その特集の一覧により、もう一度学生さんにおすすめします。巻頭のカットは、大沼真美館員による。クリスマスが近づいています。サンタクロースさんに、今年はあなたは何をお願いするのでしょうか。願いがかないますように。（田口）